

石油製品需給動態統計調査の 変更について

令和3年12月
経済産業省 資源エネルギー庁

● 液化天然ガス（LNG）の用途が広がらなかった背景事情

- 昭和44年（1969年）にLNGの輸入を開始した。
- 昭和50年（1975年）製造業者・輸入業者（液化石油ガス・液化天然ガス）月報により調査を開始。「液化石油ガス（LPG）」と国内市場で競合する可能性のある新たな燃料源として調査を行ってきた。
- その後、技術開発の研究も進められたが、保管等の管理が一般向けには適さないことから、一般への普及は極めて限定的である一方で、電気事業者のLNG火力発電へのシフトや都市ガス事業者の燃料転換が進み、LNG基地数は、調査を開始した1970年代の5倍にまで増加し、国内でのLNGの重要性は高まっている。
- 現在のLNGの需要者は電気事業者、都市ガス事業者（そのいずれかからLNGの液売りで供給を受ける事業所を含む）に限定されている。他の需要としては、自動車用燃料として、LNG車が事業用としてごく少数、稼働実績はあるが、次期燃料としては電気や水素（FCV）が主流であり、将来にわたって需要規模は無視できるほど小さい。
- 今後は、国際的にもカーボン・ニュートラルの実現に向けた政策が加速する中、LNGの需要の動向には注視が必要だが、需要者の属性など普及可能な範囲が大きく変動するような社会情勢の変化は考えにくい。

● 液化天然ガス（LNG）に関する主要なデータの他の統計との比較

